公 資料3

第 3 3 1 回 幹 事 会 公 開 審 議 事 項

令和4年9月28日

日本学術会議

# 公 開 審 議 事 項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	<b>提案理由等</b> (※シンポジウム等、後援関係について は概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開	審議事項					
1. 規則團	関係					
提案1	「日本学術会議の運営 に関する内規」の一部 を改正すること		7	「日本学術会議の運営に関する内規」に ついて、シンポジウムの開催に関する規 定の改正を行う必要があるため。	会長	_
提案2	「日本学術会議分野別 委員会及び分科会等に ついて」の一部を改正 すること	会長	11	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」について、シンポジウムの開催に関する規定の改正を行う必要があるため。	会長	_
提案3	「意思の表出等の作成 手続について」の一部 を改正すること		13	日本学術会議の意思の表出等に係る英語 表記について決定することに伴い、「意 思の表出等の作成手続ついて」を改正す る必要があるため。	髙村副会 長	_
2. 委員会	会関係					
提案 4	(機能別委員会) 科学と社会委員会委員 の決定(追加1件)	会長	29	科学と社会委員会における委員の追加を 決定する必要があるため。	菱田副会 長	内規第12条 2項
提案 5	(機能別委員会) 国際委員会 (1)運営要綱の一部改 正(分科会の設置1 件) (2)分科会委員の決定 (追加1件)	国際委員会委員長	31	(1)国際委員会に分科会を設置することに伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2)国際委員会における分科会委員を決定する必要があるため。 ※国際委員会 9 月 27 日 承認	高村副会長	国際委員会 運営要綱第 2、内規18 条
提案 6	(分野別委員会) 分科会委員の決定(追加1件)	第二部長	35	分野別委員会における分科会委員を決定 する必要があるため。	第二部長	内規18条
提案 7	(分野別委員会合同分 科会) 第一部合同分科会委員 の決定(追加1件)		37	第一部人文・社会科学の役割とその振興 に関する分科会における委員の追加を決 定する必要があるため。	第一部長	内規第12条 2項
提案8	(課題別委員会) ヒトゲノム編集技術の ガバナンスと基礎研 究・臨床応用に関する 委員会委員会委員の決 定(追加1件)		39	ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎 研究・臨床応用に関する委員会委員の追 加を決定する必要があるため。	望月副会長	内規第12条 2項

#### 3. 国際関係

0. 国际医	J VI					
提案 9	令和4年度代表派遣に ついて、実施計画の追 加及び派遣者を決定す ること		41	令和4年度代表派遣について、実施計画 の追加及び派遣者を決定する必要がある ため。	髙村副会 長	国際学術交 流事業の実 施に関する 内規第19条 2項、22条
提案10	英国王立協会とのネットゼロに関する科学技 術対話の開催について		43	主催:日本学術会議 日時:令和4年11月3日(木)9:30~ 17:00(仮) 場所:日本学術会議会議室 ※国際委員会9月27日承認	  髙村副会  長	会則第3条
	フォーラム及び土日祝日 ロ4年度第4四半期】	に講堂を使用する	シンポジワ	ウム等	•	
提案11	学術フォーラム 「食料システムから地 球温暖化の抑制を考え る」の開催について		45	主催:日本学術会議 日時:令和5年3月11日(土)または15 日(水)13:00~17:30 場所:日本学術会議講堂(オンライン併用) ※日本学術会議が開催主体のため、幹事 会の決定が必要	_	内規別表第2
提案12	学術フォーラム 「研究に関する男女共 同参画・ダイバーシ ティの推進」の開催に ついて		49	主催:日本学術会議 日時:令和5年3月22日(水)13:30~ 17:00 場所:日本学術会議講堂(オンライン併用) ※日本学術会議が開催主体のため、幹事 会の決定が必要	_	内規別表第2
5. その他	色のシンポジウム等					
提案13	公開シンポジウム 「持続可能な未来をつ くる意思決定の仕組 み」の開催について	経済学委員会委員長	53	主催:日本学術会議経済学委員会持続的発展のための制度設計分科会、持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)連絡会議日時:令和4年10月21日(金)16:00~17:30場所:オンライン開催※第一部承認	_	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「私たちの地球はどん な惑星かー科学を混ぜ て地球を探る」の開催 について		55	主催:日本学術会議地球惑星科学委員会、持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)連絡会議、国立研究開発法人科学技術振興機構日時;令和4年11月5日(土)10:30~12:00場所:テレコムセンタービル1下大ステージ(東京都江東区)※第三部承認	_	内規別表第2
提案15	公開シンポジウム 「自治体とエネルギー 政策」の開催について	員長	57	主催:日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会日時:令和4年11月5日(土)13:30~16:30場所:同志社大学今出川校地(京都府京都市) ※第一部承認	_	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム 「動物のワクチン〜家 畜を中心に〜」の開催 について		59	主催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会 日時:令和4年11月12日(土)10:00~12:00 場所:オンライン開催 ※第二部承認	_	内規別表第2

提案17	公開シンポジウム 「施設園芸のグリーン 化に向けた課題と展 望」の開催について	農学委員会委員 長、食料科学委 員会委員長	61	主催:日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会日時:令和4年11月15日(火)13:00~17:00場所:オンライン開催 ※第二部承認	_	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「なぜSDGs?-資源・ 材料循環におけるSDGs とカーボンニュートラ ルー」の開催について	学委員会委員 長、環境学委員	65	主催:日本学術会議材料工学委員会・総合工学委員会・環境学委員会合同SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会日時:令和4年11月18日(金)14:00~18:00場所:東京大学生産技術研究所コンベンションホール(東京都目黒区)(ハイブリッド開催)※第三部承認	_	内規別表第2
提案19	「東日本大震災に係る	員会委員長	67	主催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会 日時:令和4年11月19日(土)13:00~17:00 場所:双葉町産業交流センター(福島県双葉郡双葉町) ※第二部承認	_	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム 『人類学者と語る人間 の「ちがい」と差別』 の開催について		71	主催:日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会、地域研究委員会文化人類学分科会、地域研究委員会多文化共生分科会日時:令和4年11月19日(土)14:00~17:00場所:一橋講堂(東京都千代田区)(ハイブリット開催)※第一部、第二部承認	_	内規別表第 2
提案21	公開シンポジウム 「気候変動時代におけ る市町村による新たな 森林管理とゾーニン グ」の開催について		73	主催:日本学術会議農学委員会林学分科会 日時:令和4年11月20日(日)13:00~ 15:30 場所:オンライン開催 ※第二部承認	_	内規別表第2
提案22	「新興医療評価技術の 適格性認定システムの	会委員長、基礎 医学委員会委員	75	主催:日本学術会議薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会日時:令和4年11月21日(月)13:00~17:30場所:東京大学医科学研究所講堂(1号館1階)(東京都港区)(ハイブリッド開催)※第二部承認		内規別表第 2
提案23	公開シンポジウム 「水産からカーボン ニュートラルの未来を 展望する」 の開催について	食料科学委員会 委員長	79	主催:日本学術会議食料科学委員会水産 学分科会 日時:令和4年11月25日(金)13:00~ 17:15 場所:オンライン開催(予定) <b>※第二部承認</b>	_	内規別表第2

	公開シンポジウム	哲学委員会委員	81	主催:日本学術会議哲学委員会芸術と文	_ 1	 内規別表第
提案24	- 10.14	長	01	化環境分科会 日時:令和4年11月26日(土)9:50~ 17:40、11月27日(日)9:50~18:30 場所:京都大学国際科学イノベーション 棟・シンポジウムホール (京都府京都市)(ハイブリッド開催) ※第一部承認		2
提案25	日本学術会議中国・四 国地区会議主催学術講 演会 「VUCA時代における諸 課題に対する分野横断 的アプローチ」 の開催について	員長	85	主催:日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人香川大学日時:令和4年11月26日(土)13:30~17:10場所:香川大学幸町キャンパス・オリーブスクエア多目的ホール(香川県高松市)(オンライン併用)※科学者委員会承認	_	内規別表第 2
提案26	公開シンポジウム 「『SDGs達成に向けた 農芸化学の挑戦』第4 回植物科学からサステ イナブルな農業生産・ ものづくりへ」の開催 について	員会委員長、基 礎生物学委員会 委員長、統合生	87	主催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同合同植物科学分科会日時:令和4年11月29日(火)13:00~16:35場所:オンライン開催※第二部承認	_	内規別表第 2
提案27	公開シンポジウム 「地元創成看護学の実 装-教育・研究・社会 貢献の循環」の開催に ついて	委員会委員長	91	主催:日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会日時:令和4年12月4日(日)14:45~16:15場所:広島国際会議場第2会場(広島県広島市)(ハイブリッド開催)※収録映像のオンデマンド配信※第二部承認	_	内規別表第 2
提案28	公開シンポジウム 「今、なぜ「国家」が 問われるのか?」の開 催について	長	93	主催:日本学術会議哲学委員会 日時:令和4年12月10日(土)13:30~ 17:00 場所:オンライン開催 ※第一部承認	_	内規別表第 2
提案29	公開シンポジウム 「地名標準化の現状と 課題:地名データベー スの構築と地名標準化 機関の設置に向けて」 の開催について	星科学委員会委	95	主催:日本学術会議地域研究委員会地域 情報分科会・地球惑星科学委員会IGU分科 会 日時:令和4年12月18日(日)13:00~ 17:00 場所:オンライン開催 ※第一部承認	_	内規別表第 2
提案30	公開シンポジウム 「新興・再興感染症の 克服に挑む ~COVID- 19との闘いを経て~」 の開催について	薬学委員会委員 長	99	主催:日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、公益社団法人日本薬学会日時:令和5年1月13日(金)13:00~17:00場所:日本学術会議講堂(東京都港区)(ハイブリッド開催)※第二部承認	_	内規別表第 2
提案31	公開シンポジウム 「薬剤師のプロフェッショナリズムを考え る」の開催について	薬学委員会委員 長	103	主催:日本学術会議薬学委員会地域共生社会における薬剤師職能分科会、薬学委員会、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本医療薬学会日時:令和5年1月22日(日)13:00~16:40場所:オンライン開催※第二部承認	_	内規別表第 2

## 6. 後援

	国内会議の後援をすること	会長	以下について、後援の申請があり、関係 する部、委員会に審議付託したところ、 適当である旨の回答があったので、後援 することとしたい。	会長	後援名義使 用承認基準 3(2)ウ
提案32			①第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ②令和5年電気学会全国大会一般公開シンポジウム『カーボンニュートラルの時代に『電気』が果たす役割 ~未来につなぐ夢を語ろう~』(日本学術会議 制御・パワー工学分科会の活動から) ③第46回人間-生活環境系シンポジウム		

## 7. その他

	件名	資料(頁)
参考	<b>今後の総会及び幹事会開催予定</b>    今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、第186回総会期間中に開催予定。	109

日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会	会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。
改正後	改正前
(主催区分)	(主催区分)
第5条 学術会議が講演会、シンポジウム等を主催する場合は、	第5条 学術会議が講演会、シンポジウム等を主催する場合は、
別表第2の区分によって行う。	別表第2の区分によって行う。
2 講演会、シンポジウム等の主催に関する幹事会の議案の様式	2 講演会、シンポジウム等の主催に関する幹事会の議案の様式
は、別表第3のとおりとする。	は、別表第3のとおりとする。
3 開催主体の名義使用に当たっては、「日本学術会議」名を付す	3 開催主体の名義使用に当たっては、「日本学術会議」名を付す
ものとする。	ものとする。
4 講演会、シンポジウム等の開催後、その概要についておおむ	(加える。)
ね1か月以内に報告する。報告の様式は、別表第4のとおりと	
<u>する。</u>	
(参考)日本学術会議分野別委員会及び分科会等について(平成20年10月	
23 日日本学術会議第 67 回幹事会決定)(抜粋)	
VI 講演会、シンポジウム等の開催について	
2. 講演会、シンポジウム等の実行	
⑤ シンポジウム等の開催後には、その概要について、別紙7の様式に	
より日本学術会議事務局への報告を行ってください(報告の提出は、	
シンポジウム等の開催からおおむね1か月後)。	
	total and total
第11条	第11条
3 課題別委員会の設置に関する議案の様式は、 <u>別表第5</u> のとお	3 課題別委員会の設置に関する議案の様式は、 <u>別表第4</u> のとお
りとする。	りとする。
(略)	(略)
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	(PIT)

別表第3(第5条関係) 別表第3(第5条関係) 令和 年 月 日 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 日本学術会議会長 殿 講演会、シンポジウム等主催提案書 講演会、シンポジウム等主催提案書 ○○○○○○○○○の開催について ○○○○○○○○の開催について (同左) (略) 5. 場 所: 5. 場 所: (同左) (略) (加える。) 6. 一般参加の可否: 可の場合は、一般参加者の参加費の有無: (参加費を徴収する場合は主催として認められません。) 不可の場合は、その理由: 6. 分科会等の開催: (該当のある場合) 7. 分科会等の開催: (該当のある場合) 7. 開催趣旨: 8. 開催趣旨: 8. 次 第: 9. 次 第: (同左) (略) 9. 関係部の承認の有無: 10. 関係部の承認の有無: 10. 関係する委員会等連絡会議の有無 11. 関係する委員会等連絡会議の有無

(有の場合は、関係する委員会等連絡会議の名称)	(有の場合は、関係する委員会等連絡会議の名称)
(略)	(略)
別表第4(第5条関係)	(加える。)
講演会、シンポジウム等の概要について(事後報告)	
1 名称: ○○○○○○○○	
2 日本学術会議側の主催者:○○○委員会○○○分科会	
3 その他の主催団体等:	
4 開催日時:令和○○年○月○日(○) ○時○分~○時○分	
5 開催場所: ○○○○○○○○	
6 開催趣旨:       ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
7 参加人数: 講演者等:○○名 その他の参加者:○○○名	
8 特記事項:	

000000000 000000000 ※「特記事項」欄には、下記のようなことで、当該シンポジ ウム等の開催による成果として特記すべき事項があれ ば、簡潔に記載。また、『学術の動向』への関連記事の掲 載希望があれば、その旨を併せて記載 ①メディアによる主催・報道等の状況 ②委員会等の審議活動(意思の表出を含む。)への反映 ③共同主催団体等における事後の取組 ※記載はA4用紙で1枚以内とし、その他必要があれば関 連資料等を添付 別表第5(第11条関係) 別表第4(第11条関係) 令和 年 月 日 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 日本学術会議会長 殿 課題別委員会設置提案書 課題別委員会設置提案書 (略) (略)

附則(令和4年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)

この決定は、決定の日の翌日から施行する。ただし、講演会、シンポジウム等の開催後の報告に関する改正は、この決定の施行後に決定した講演会、シンポジウム等について適用し、この決定の施行前に決定した講演会、シンポジウム等については、なお従前の例による。

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について(平成20年10月23日日本学術会議第67回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
VI 講演会、シンポジウム等の開催について 2. 講演会、シンポジウム等の実行	VI 講演会、シンポジウム等の開催について 2. 講演会、シンポジウム等の実行
(略)	(同左)
⑤ <u>講演会、</u> シンポジウム等の開催後には、その概要について、 <u>別</u> <u>紙7(内規別表第4)</u> の様式により日本学術会議事務局への報告を行ってください(報告の提出は、 <u>講演会、</u> シンポジウム等の開催からおおむね1か月 <u>以内</u> )。	⑤ シンポジウム等の開催後には、その概要について、 <u>別紙7</u> の様式により日本学術会議事務局への報告を行ってください(報告の提出は、シンポジウム等の開催からおおむね1か月 <u>後</u> )。
(別紙6) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿	(別紙 6) 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿
講演会、シンポジウム等主催提案書 ○○○○○○○○○の開催について	講演会、シンポジウム等主催提案書 ○○○○○○○○○○開催について
(略)	(同左)
5. 場 所:	5. 場 所:
(略)	(同左)

6. 一般参加の可否: 可の場合は、一般参加者の参加費の有無: (参加費を徴収する場合は主催として認められません。) 不可の場合は、その理由:	(加える。)
<u>7</u> . 分科会等の開催: (該当のある場合)	<u>6</u> . 分科会等の開催: (該当のある場合)
8. 開催趣旨:	<u>7</u> . 開催趣旨:
<u>9</u> . 次 第: (略)	8. 次 第: (同左)
10. 関係部の承認の有無:	<u>9</u> . 関係部の承認の有無:
11. 関係する委員会等連絡会議の有無 (有の場合は、関係する委員会等連絡会議の名称)	10. 関係する委員会等連絡会議の有無 (有の場合は、関係する委員会等連絡会議の名称)
(略)	(同左)
(別紙7)	(別紙7)
講演会、シンポジウム等の概要について(事後報告)	シンポジウム等の概要について(事後報告)
(略)	(同左)

附則(令和4年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定) この決定は、決定の日の翌日から施行する。 意思の表出等の作成手続について(令和3年12月24日日本学術会議第320回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

	改 正 後	改正前
(略)		(同左)
VI. 英訳の取扱いにつ	いて	VI. 英訳の取扱いについて
(略)		(同左)
8. 意思の表出の名称 意思の表出の名称 (略)	の英訳 の英訳を、以下のとおり定める。	8. 意思の表出の名称の英訳 意思の表出の名称の英訳を、以下のとおり定める。 (略)
9. 委員会等の名称の	<u>英訳</u>	(加える)
委員会等の名称の	英訳を、以下のとおり定める。	
組織名 (和文)	英訳	
日本学術会議	Science Council of Japan	
会員	Council Member	
連携会員	Member	
特任連携会員 Designated Associate Member		
会長 President		
副会長	Vice-President	

	1	
科学者委員会担当副	• Vice-President <u>In Charge of</u>	
会長	Organizational Management	
	(英語パンフレット定訳)	
	• Vice-President <u>for</u>	
	Organizational Management (修正案)	
科学と社会委員会担	· Vice-President In Charge of	
当副会長	Contacts with Government	
	and Society(英語パンフレッ	
	ト定訳)	
	• Vice-President <u>for</u> <u>Liaison</u>	
	with Government and	
	Society(修正案)	
国際委員会担当副会	· Vice-President In Charge of	
長	International <u>Activities</u> (英	
	語パンフレット定訳)	
	• Vice-President <u>for</u>	
	International <u>Affairs</u> (修正	
	案) ※Affairs は四役会議での案。	
第一部	Section I	
第二部	Section II	
第三部	SectionIII	
部長	Chairperson of Section●	

副部長	Vice-Chairperson of Section●	
幹事	Secretary	
総会	General Assembly	
幹事会	Executive Board	
部会	Section Meeting	
連合部会	Joint Section Meeting	
機能別委員会	Administrative Committee for	
	Operation	
選考委員会	Nomination Committee	
科学者委員会	Committee for Scientific	
	Community	
科学と社会委員会	Committee for Science and	
	Society	
国際委員会	International Affairs Committee	
分野別委員会	· <u>Specialty</u> Committees (英語	
	パンフレット定訳)	
	· <u>Sectoral</u> Committees (修正案	
	①)	
	· <u>Section</u> Committees(修正案	
	2)	
	・ <u>Discipline-based</u> committees (修正案③)	
	(14-7-4-6)	

言語・文学委員会	Committee on Language and	
	Literature	
哲学委員会	Committee on Philosophy	
心理学・教育学委	Committee on Psychology and	
員会	Education Studies	
社会学委員会	Committee on Sociology	
史学委員会	Committee on History	
地域研究委員会	Committee on Area Studies	
法学委員会	Committee on Law	
政治学委員会	Committee on Political Science	
経済学委員会	Committee on Economics	
経営学委員会	Committee on Management and	
	Business Studies	
基礎生物学委員会	Committees on Basic Biology	
統合生物学委員会	Committee on Integrative	
	Biology	
農学委員会	Committee on Agricultural	
	Science	
食料科学委員会	Committee on Food Science	
基礎医学委員会	Committee on Basic Medical	
	Sciences	
臨床医学委員会	Committee on Clinical Medicine	

健康・生活科学委	Committee on Health and	
員会	Human Life Science	
歯学委員会	Committee on Dentistry	
薬学委員会	Committee on Pharmaceutical	
	Sciences	
環境学委員会	Committee on Environmental	
	Studies	
数理科学委員会	Committee on Mathematical	
	Science	
物理学委員会	Committee on Physics	
地球惑星科学委員	Committee on Earth and	
会	Planetary Science	
情報学委員会	Committee on Informatics	
化学委員会	Committee on Chemistry	
総合工学委員会	Committee on Comprehensive	
	Synthetic Engineering	
機械工学委員会	Committee on Mechanical	
	Engineering	
電気電子工学委員	Committee on Electrical and	
会	Electronic Engineering	
	G G. 11 F	
土木工学・建築学	Committee on Civil Engineering	
土木工学・建築学 委員会	and Architecture	

材料工学委員会	Committee on Material	
	Engineering	
課題別委員会	• <u>Issue-centered</u> Committees	
	(英語パンフレット定訳)	
	・ <u>Focus</u> Committees(修正案)	
防災減災学術連携	Committee on Academic	
委員会	Collaboration for Disaster	
	Reduction	
人口縮小社会にお	Committee on Finding Solutions	
ける問題解決のた	in the Society with Declining	
めの検討委員会	Population	
フューチャー・ア	Committee for the Promotion	
ースの推進と連携	and Cooperation of Future	
に関する委員会	Earth	
オープンサイエン	Committee on Data Platform for	
スを推進するデー	Open Science and its	
タ基盤とその利活	Application	
用に関する検討委		
員会		
自動運転の社会実	Committee on Designing Society	
装と次世代モビリ	by Implementation of	
ティによる社会デ	Automated Driving for Future	
ザイン検討委員会	Generation Mobility	

<b>労生は却のご</b> いり	C :11 C 11 D ::	
学術情報のデジタ	Committee for the Promotion	
ルトランスフォー	of Digital Transformation of	
メーションを推進	Scholarly Information	
する学術情報の基		
盤形成に関する検		
討委員会		
大学教育の分野別	Committee for Subject Quality	
質保証委員会	Assurance in Higher Education	
我が国の学術の発	Committee for Academic	
展・研究力強化に	Development and Enhancement	
関する検討委員会	of Research Capability in Japan	
ヒトゲノム編集技	Committee on Governance,	
術のガバナンスと	Basic Research and Clinical	
基礎研究・臨床応	Applications of Human Genome	
用に関する委員会	Editing Technology	
委員会	Committee (on ●●) (原則)	
分科会	Subcommittee (on ●●)	
小分科会	Working Subcommittee (on ●	
	•)	
小委員会	Working Group (on ●●)	
連絡会議	・ Liaison Committee (案①)	
	• Interdisciplinary Liaison	
	Committee (案②)	

	※英語パンフレットの定訳無し	
委員長	Chair of Committee on ••	
副委員長	Vice-Chair of Committee on ●	
	•	
(委員会) 幹事	Secretary	
地区会議	Regional Conference	
若手アカデミー	Young Academy	
協力学術研究団体	Partnership with academic	
	societies	
事務局	Secretariat	
事務局長	Director – General	
事務局次長	Deputy Director - General	
課長/参事官	Director	
企画課長	Director, Planning Division	
管理課長	Director, Management Division	
参事官 (審議第一)	Director, Division for Scientific	
	Affairs I	
参事官 (審議第二)	Director, Division for Scientific	
	Affairs II	
参事官 (国際業務)	Director, International Affairs	
	Division	
課長補佐/参事官補佐	Deputy Director	

係長/専門職	Unit Chief
係員/専門職付	Official
企画課	Planning Division
管理課	Management Division
参事官室(審議第	Division for Scientific Affairs I
<b>一</b> )	
参事官室(審議第	Division for Scientific Affairs II
二)	
参事官室(国際業	International Affairs Division
務)	

(略)

別紙様式4

(略)

(略)

別紙様式4

(略)

<英訳版様式>

(加える)

#### (表出主体が日本学術会議である場合)

This Recommendation to the Government /Findings Report /Request / Statement/ Recommendation/Response is largely the outcome of the deliberations of the Subcommittee on  $\Delta\Delta$ , of the Committee on  $\Delta$ O, Science Council of Japan, and is issued under the auspices of the Science Council of Japan.

#### (表出主体が部、委員会又は分科会である場合)

This Advisory Opinion / Report is issued in accordance with the outcome of the deliberations of the Subcommittee on  $\Delta\Delta$  of the Committee on  $\Delta$ O, Science Council of Japan.

Subcommittee (on ••)

Chair of Committee OO OO (Council
Member) OOOOOOO
Vice-Chair of Committee OO OO (Council
Member) OOOOOOO
Secretary OO OO (Member) OO
00000
OO OO (Council Member)
0000000
OO OO (Member) OOO
00000
OO OO (Designated
Associate Member) OOOOOOO
OO OO (Council Member)
0000000
Staff members responsible for preparation of Advisory Report.
Secretariat OO OO Director, Division for
Scientific Affairs I
OO OO Deputy Director
OO OO Unit Chief
OO OO Official

This English version is a translation of the original written in Japanese.

#### **Executive Summary**

- 1 Background
- 2 Current Situation and Issues
- 3 Recommendations
  - (1) 00000
    - 00000000000000000 0000000000000000

•	000000000000000000000000000000000000000
(	000000000000000

#### (2) 00000

- 00000000000000000 0000000000000000

#### (3) 00000

- 00000000000000000 0000000000000000

#### **Table of Contents**

Introduction	1
1 0000	2
(1) 0000	2
① 000000	3
2 0000	5
3 0000	6
ア 000000	7

イ 00000 (ア) 00000 (イ) 000 ウ 00000 ④ 0000 ⑤ 00 (2) 00000 (3) 000 2 00000	8 1 0 1 2 1 5 1 6 1 7 -
Conclusion	
<terminology abbreviations="" and=""></terminology>	
<references></references>	
<appendix></appendix>	
 1 MLA Chicago style を使用してください。	

## (本 文)

附 則(令和4年9月28日日本学術会議第331回幹事会決定)

(施行期日)

1. この決定は、決定の日から施行する。

(関係する決定の廃止)

2. 日本学術会議の組織の英訳(平成20年10月23日日本学術会議第67回幹事会決定)は、廃止する。

提案4

## 【機能別委員会】

○委員の決定(追加1件)

(科学と社会委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備考
吉田 文	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	第一部会員

【設置:常置(細則第10条第1項)、追加決定後の委員数:12名】

○国際委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後				改正前				
別表 1				別表 1				
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
持続可能な社 会のための科 学と技術に関 する国際会議 2022 分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な社 会のための科 学と技術に関 する国際会議 2022 分科会	(略)	(略)	(略)	
持続可能な社 会のための科 学と技術に関 する国際会議 2023 分科会	持続可能な社会 のための科学と 技術に関する国際会議 2023 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	副会長 (日本学 術会議会則第 5条第3号担 当) 及び会員又 は連携会員若 干名	設置期間:令 和4年9月2 8日~令和5 年9月30日	(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

附則

この決定は、決定の日から施行する。

### 国際委員会分科会の設置について

## 分科会等名:持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023 分科会

1	所属委員会名	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又
		は連携会員若干名。
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課
		題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るた
		め、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び
		実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議
		2023 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関す
		ること。
5	設置期間	令和4年9月28日~令和5年9月30日
6	備考	※新規設置(平成 15 年から「持続可能な社会のための科学
		と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための
		分科会を都度設置している。)

## ○委員の追加(追加1件)

(国際委員会 ISC等分科会)

氏	名	所	属	•	職	名	備	考
日比谷	潤子	学校法人聖 教大学名誉		学院常	務理事、	国際基督	第一部会	員

【設置:第304回幹事会(令和2年11月26日)、追加決定後の委員数:11名】

# 【分野別委員会】

○委員の決定(追加1件)

(基礎医学委員会・臨床医学委員会合同アディクション分科会)

氏 名	所 属 · 職 名	備考
大倉 典子	芝浦工業大学名誉教授·SIT 総合研究所特任教授、	第三部会員
	中央大学大学院理工学研究科客員教授	

【設置:第302回幹事会(令和2年10月29日)、追加決定後の委員数:20名】

# 【分野別委員会合同分科会】

○委員の決定(追加1件)

(第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備考
吉田 文	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	第一部会員

【設置:第302回幹事会(令和2年10月29日)、追加決定後の委員数:20名】

# 【課題別委員会】

○委員の決定(追加1件)

(ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会)

氏 名	所 属・職 名	備考
香川 知晶	山梨大学名誉教授、同大学研究員	連携会員

【設置:第314回幹事会(令和3年7月29日)、追加決定後の委員数:11名】

# 令和4年度代表派遣実施計画の派遣者の追加および決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の追加および派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推薦	内 容
1	世界科学フォーラム (WSF)執行委員会	10月21日	オンライン	髙村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センタ ー教授)	国際委員会	<ul><li>・代表派遣計画の追加</li><li>・派遣者の決定</li><li>※オンライン出席予定</li></ul>
2	AASSA WISE(Women in Science and Engineering)第1回シンポジウム及び第48回科学・技術・技術革新会議	11月29日 ~ 12月1日	ナコンシータ マラート (タイ)	伊藤 由佳理 第三部会員 (東京大学国際高等研究所カブリ 数物連携宇宙研究機構教授)	国際委員会アジア学術会議等分科会	<ul><li>・代表派遣計画の追加</li><li>・派遣者の決定</li><li>※現地出席予定</li></ul>
3	世界科学フォーラム (WSF)	12月5日 ~ 12月9日	ケープタウン (南アフリカ)/ ハイブリッド形 式	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センタ ー教授)	国際委員会	<ul><li>・派遣者の決定</li><li>※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。</li><li>※オンライン出席予定</li></ul>
4	北極科学サミット週間 2023	2月 17 日 ~ 2月 24 日	ウィーン (オーストリア)	榎本 浩之 ※ 一 (情報・システム研究機構国立極 地研究所教授)	地球惑星科学委 員会地球惑星科 学国際連携分科 会	<ul><li>・派遣者の決定</li><li>※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。</li><li>※現地出席予定</li></ul>
5	第78回国際地質科学連合(IUGS)理事会及び執行理事会	2月 20 日 ~ 2月 25 日	ナイロビ (ケニア)	北里 洋 ※ 一 (早稲田大学教育総合科学学術 院招聘研究員)	地球惑星科学委 員会IUGS 分科会	<ul><li>・派遣者の決定</li><li>※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。</li><li>※現地出席予定</li></ul>

<sup>※</sup>の派遣候補者は、特任連携会員に承認されることを条件とする。

### 英国王立協会とのネットゼロに関する科学技術対話の開催について(案)

<sup>2</sup> 令 和 4 年 9 月 2 8 日 日本学術会議第 331 回幹事会決定

- 1. 日 時 令和4年11月3日(木)9:30-17:00
- 2. 会場 日本学術会議会議室
- 3. テーマ Net Zero Solution through Science
- 4. 開催趣旨

2050年までのネットゼロ達成にむけて重要視される技術の開発普及に際し、直面する研究課題について、専門家間で議論、その結果として、政策への反映や商用化を含む具体的な社会実装に直結するような研究開発(二国間共同研究を含む)領域を特定する。

### 5. プログラム

9:30-10:30	オープニング・プレナリー	約1時間
10:30-12:00	ブレイクアウト・セッション(午前)	約 1.5 時間
12:00-13:30	ランチ	約 1.5 時間
13:30-15:00	ブレイクアウト・セッション(午後)	約 1.5 時間
15:00-17:00	クロージング・プレナリー (ブレイクアウト・セッションのまとめ、及び二国間協力の展望)	約2時間

ブレイクアウト・セッションのテーマ:水素、アンモニア、合成燃料、触媒、バッテリー等

### 6. 参加者

英国王立協会と日本学術会議等よりそれぞれ 10 名前後の専門家。

#### (英国王立協会からの参加予定者)

氏名	所属		
1. Peter Bruce	Physical Secretary/Vice President of The Royal Society,		
	Wolfson Professor of Materials at the University of Oxford		
2 Nigal Brandon	Chair, Sustainable Development in Energy and Dean, Faculty of Engineering,		
2. Nigel Brandon	Imperial College London		
3. Graham Hutchings	Professor of Physical Chemistry, School of Chemistry, Cardiff University		
4 A 11 17 1	Professor of Physical Chemistry in the Department of Chemistry, Imperial		
4. Anthony Kucernak	College London		
5 Dill David	Professor of Materials Chemistry, Inorganic Chemistry Laboratory,		
5. Bill David,	University of Oxford		
6 Claire Cress	Royal Society Research Professor, Department of Chemistry, University of		
6. Claire Grey	Cambridge) and Principal Investigator at the Faraday Institution		
7 Janny Nalaan	Professor of Physics, Blackett Laboratory,		
7. Jenny Nelson	Imperial College London		
他 2 名			

## (日本学術会議等からの参加予定者)

	1 . 1	······································
	氏名	所属
1.	梶田 隆章	日本学術会議会長
2.	菱田 公一	日本学術会議副会長(政府、社会及び国民等との関係担当)
3.	髙村 ゆかり	日本学術会議副会長(国際活動担当)
4.	吉村 忍	日本学術会議第三部長
5.	北川 尚美	日本学術会議第三部幹事
6.	本間 格	東北大学多元物質科学研究所金属資源プロセス研究センター長・教授

氏名	所属
7. 菅野 了次	東京工業大学科学技術創成研究院特命教授
8. 一杉 太郎	東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授
9. 堂免 一成	信州大学先鋭領域融合研究群先鋭材料研究所特別特任教授、東京大学大学院工学系研究科教授
10. 佐々木 一成	九州大学大学院工学研究院機械工学部門主幹教授/連携会員
11. 中村 優美子	国立研究開発法人産業技術総合研究所創エネルギー研究部門総括研究主幹/連携会員
12. 江口 浩一	京都大学名誉教授
13. 永岡 勝俊	名古屋大学院工学研究科化学システム工学専攻先進化学工学システム教 授
14. 椿 範立	富山大学大学院理工学研究部教授/連携会員
15. 山内 美穂	九州大学先導物質化学研究所分子集積化学部門無機物質化学分野教授/連携会員
16. 関根 泰	早稲田大学先進理工学研究科教授
17. 冨重 圭一	東北大学大学院工学研究科・工学部応用化学専攻 エネルギー資源化学分野教授
18. 藤谷 忠博	国立研究開発法人産業技術総合研究所 材料・化学領域招聘研究員

<sup>※</sup>参加者及びプログラムは変更の可能性あり

以上

# 〇学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和4年度第4四半期】

### <概要>

### 1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

### ○今回提案【令和4年度第4四半期】 全2件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 11	「食料システムから地球 温暖化の抑制を考える」 (企画:カーボンニュー トラルに関する連絡会 議)	令和5年3月 11日(土)また は15日(水) 13:00~17:30	日本学術会 議講堂(オ ンライン併 用)	要	要
2	提案 12	「研究に関する男女共同 参画・ダイバーシティの 推進」 (企画:科学者委員会男 女共同参画分科会)	令和5年3月 22日(水) 13:30~17:00	日本学術会 議講堂(オ ンライン併 用)	要	要

(参考) ------

### ■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日5件/土日8件/開催曜日未定1件) 全14件 (内訳) ※14件全てについて、経費又は人的負担要

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
		(4月~6月)	(7月~9月)	(10月~12月)	(1月~3月)
	(土目)	3		5	
学術フォ	(平日)		4		1
ーラム	(開催曜日				1
	未定)				1
	合計	3	4	5	2

# 日本学術会議主催学術フォーラム 「食料システムから地球温暖化の抑制を考える」の開催について(案)

1. 主 催:日本学術会議

2. 日 時:令和5年3月11日(土)または15日(水)13:00~17:30

3. 場 所:日本学術会議講堂(オンライン併用)

4. 委員会等の開催:なし

## 5. 開催趣旨:

農水畜産業による食料生産から加工・流通を経て消費・廃棄に至るサプライチェーンの全体システムとしての食料システムが地球環境、特に温暖化に与える影響が、近年さまざまな研究から明らかになってきた。本フォーラムでは、「食」という、誰もが自分事と認識できる身近なテーマを切り口として、カーボンニュートラルの実現に向けた取組を多角的に俯瞰し、市民を含むマルチセクターで課題を共有することにより、今後の研究開発および産学公民連携の道筋を見通すことを目的とする。

6.次 第:(予定、交渉中のものも含む。) 司会 北川 尚美(日本学術会議第三部幹事、東北大学大学院工学研究科教授)

### 13:00 開会

開会挨拶 調整中

趣旨説明 <u>古谷 研(日本学術会議連携会員、同食料科学委員会前委員長、創価</u> 大学特別教授)

### 13:15 第1部 生産現場での取組

- 食料生産と気候変動緩和の一石二鳥 ~土壌は地球を救う!~
   白戸 康人(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構気候変動緩和策領域長)
- ・ 牛ルーメンマイクロバイオーム完全制御によるメタン 80%削減に向けた新 たな家畜生産システムの実現

小林 泰男(北海道大学大学院農学研究院特任教授)

- 14:30 第2部 地球にやさしい食生活
  - ・ 地球にやさしい食生活 飯山 みゆき (国立研究開発法人国際農林水産業研究センタープログ ラムディレクター)
  - 食品ロス井出 留美(ジャーナリスト)
  - 調整中(日本学術会議第一部関係者)
- 15:45 休憩
- 16:00 第3部 様々なセクターでの取組
  - ・ 株式会社リバネスから、スタートアップ企業の取組やコンセプトを幅広く紹介(20分程度)
  - スタートアップ企業からのピッチ(5分×5本程度)
    - (株) クリラス コオロギが実現する持続可能な食用タンパク質生産
    - (株) エスケア 購買履歴から栄養状態を可視化し最適なレコメンドを
    - (株) スマートハンドレッド 必要な量を迅速に解凍することで食品ロス抑制
    - (株) ミートエポック 発酵醸成シートで KEEP フード&廃棄抑制 など
  - ・ 総合討論 (スタートアップ×研究者) 30 分程度

17:30 閉会

(下線は、日本学術会議関係者)

### 日本学術会議主催学術フォーラム

「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」の開催について(案)

1. 主 催:日本学術会議

2. 日 時: 令和5年3月22日(水) 13:30 ~ 17:00

3. 場 所:日本学術会議講堂(オンライン併用)

4. 委員会等の開催:なし

5. 開催趣旨:

科学者委員会男女共同参画分科会では、24期から研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関する大学・研究機関向けアンケート調査を実施し、その成果を社会発信するよう準備を進めてきた。現在、科学的助言等対応委員会の指導をいただきながら「提言」を取りまとめつつあるところである。本フォーラムでは、その提言を基調講演として発表しつつ、各大学協会、学協会、政府、funding agency などからの参加を得て、提言の普及に努める。

6. 次 第: (予定、交渉中のものも含む。)

13:30~13:40 開会挨拶

望月 眞弓 (日本学術会議副会長・科学者委員会男女共同参画分科会委員長、 慶應義塾大学名誉教授)

内閣府男女共同参画局長:交渉中 文部科学省高等教育局長:交渉中

第一部:提言及び学協会のアンケート調査結果等について

座長:<u>熊谷 日登美(日本学術会議第二部会員・科学者委員会男女共同参画分</u> 科会幹事、日本大学生物資源科学部教授)

13:40~14:40 講演

1 提言「大学・研究機関における男女共同参画への取り組み実態から見た課題と対応〜研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査から〜」について

三成 美保(日本学術会議連携会員・科学者委員会男女共同参画分科会アンケート検討小分科会委員長、追手門学院大学教授)

野尻 美保子(日本学術会議第三部会員・科学者委員会男女共同参画分科会幹事、大学共同利用機関高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核

## 研究所教授)

2 男女共同参画学協会連絡会の大規模アンケート結果から 原田 慶恵(日本学術会議連携会員、大阪大学蛋白質研究所教授)

3 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)のアンケート調査結果から

永瀬 伸子(日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授)

4 女性学長等上位職への男女共同参画の取組の国際比較

米澤 彰純 (東北大学国際戦略室教授)

14:40~15:10 討論1

モデレーター:熊谷 日登美(再掲)

講演者に加えて、内閣府、文部科学省から参加

休憩(15分)

第二部:様々な立場における男女共同参画の取組や課題について

座長:<u>藤井 良一(日本学術会議連携会員・科学者委員会男女共同参画分科会</u> 委員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長)

15:25~16:20 講演

1 若手男性研究者の立場から

標葉 隆馬(日本学術会議特任連携会員・若手アカデミー会員、大阪大学社会 技術共創研究センター准教授)

2 企業の取組1

鈴木 ゆかり (株式会社資生堂代表取締役常務)

3 企業の取組2

福地 敏行(日本アイ・ビー・エム株式会社取締役副社長)

4 女性研究者支援の男女共同参画の国際比較

河野 銀子(日本学術会議連携会員・科学者委員会男女共同参画分科会性差に 基づく科学技術イノベーションの検討小分科会幹事、山形大学学術 研究院教授)

5 経済学からみた男女共同参画の必要性(研究に携わる男性が子育てに関わる意味 についても言及)

山口 慎太郎 (東京大学大学院経済学研究科教授)

16:20~16:50 討論 2

モデレーター: <u>伊藤 公雄(日本学術会議連携会員・科学者委員会男女共同参</u> 画分科会委員、京都産業大学客員教授)

## 第二部講演者が参加

16:50~17:00 閉会挨拶(まとめを含む)

高橋 裕子(日本学術会議第一部会員・科学者委員会男女共同参画分科会副委 員長、津田塾大学学長・教授)

(下線は、日本学術会議関係者)

# 公開シンポジウム 「持続可能な未来をつくる意思決定の仕組み」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議経済学委員会持続的発展のための制度設計分科会、持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)連絡会議
- 2. 共催:なし
- 3.後 援:なし
- 4. 日 時:令和4年(2022年)10月21日(金)16:00~17:30
- 5. 場 所: オンライン (科学技術振興機構サイエンスアゴラ 2022)
- 6. 分科会等の開催:なし

### 7. 開催趣旨:

国連とユネスコは 2022 年 7 月からの 1 年間を「持続可能な発展のための国際基礎科学年 (IYBSSD)」としており、日本学術会議はこれをサポートするために様々なイベントを行っている。持続可能な科学技術を開発し社会に実装していくためには、未来志向の取組に対する人々の賛同が欠かせない。サイエンスアゴラでは、基礎科学の一つとして政治経済学(望ましい投票の仕組み)とフューチャーデザイン(未来志向に変える仕掛け)を取り上げる。第一線の研究者による学知の紹介、パネルディスカッション、簡単な模擬実験を含む来場者との対話を通じて、持続可能な未来を選ぶ方法を考えたい。

### 8. 次 第:

16:00 ~ 16:05 開会のあいさつ 安田 洋祐 (日本学術会議特任連携会員、大阪大学大学院経済学研究科教授)

16:05 ~ 16:20 報告1 浅古 泰史(早稲田大学政治経済学術院准教授)

16:20 ~ 16:35 報告2 西村 直子(日本学術会議連携会員、立命館大学食マネジメント学部教授)

16:35 ~ 16:55 パネルディスカッション 上記3名

寺井 公子(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授)

16:55 ~ 17:25 聴衆との対話(司会):安田 洋祐

17:25 ~ 17:30 閉会の挨拶:寺井 公子

9. 関係部の承認の有無:第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無:「持続可能な発展のための国際基礎科学年

2022」(IYBSSD2022) 連絡会議

※「サイエンスアゴラ 2022」内の一プログラムとして開催予定

(下線の講演者等は、主催分科会等委員)

### 公開シンポジウム

# 「私たちの地球はどんな惑星かー科学を混ぜて地球を探る」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議地球惑星科学委員会、持続可能な発展のための国際基礎科 学年(IYBSD)連絡会議、国立研究開発法人科学技術振興機構
- 2. 共 催:公益社団法人日本地球惑星科学連合(申請中)
- 3.後 援:なし
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月5日(土)10:30~12:00
- 5. 場 所: テレコムセンタービル1F大ステージ
- 6. 分科会等の開催:なし

### 7. 開催趣旨:

国連とユネスコは 2022 年7月からの1年間を「持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)」としており、日本学術会議はこれをサポートするために様々なイベントを行っている。サイエンスアゴラでは、基礎科学の一つとして地球惑星科学を取り上げる。地球惑星科学は、気候変動や災害など、われわれの身の回りの環境と深く関係しているが、物理・化学・生物などの基礎科学に基づいて成り立っている。その例として、観測や計算に基づく大気科学と、生命を育む星を探す挑戦を取り上げ、第一線の研究者による紹介、聴衆との対話を通して、基礎科学の面白さ、さらには我々が棲む地球とはいかなる惑星かということを知ってもらう。

### 8. 次 第:

10:30 ~ 10:35 開会のあいさつ 田近 英一(日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授)

 $10:35 \sim 11:00$ 

佐藤 薫(日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授、公益社団法 人日本気象学会理事長)

 $11:00 \sim 11:25$ 

関根 康人(東京工業大学地球生命研究所教授・所長)

11:25 ~ 11:55 聴衆との対話

司会:沖 大幹(日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

11:55 ~ 12:00 閉会の挨拶

<u>野尻</u> 美保子(日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人高エネルギー加速 器研究機構素粒子原子核研究所教授)

- 9. 関係部の承認の有無: 第三部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無: 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議

(下線の講演者等は、主催委員会等委員)

# 公開シンポジウム 「自治体とエネルギー政策」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議政治学委員会行政学·地方自治分科会

2. 共 催:日本地方自治学会、明治大学自治体政策経営研究所

3. 後 援:なし

4. 日 時: 令和4年(2022年) 11月5日(十) 13:30~16:30

5. 場 所:同志社大学今出川校地(京都府京都市上京区今出川烏丸東入)

6. 分科会の開催:開催予定あり

#### 7. 開催趣旨:

東日本大震災における東京電力福島第一原発事故以降、日本における電力需要はひっ追しており、再生可能エネルギーの開発やそれに伴う環境問題、原発再稼働問題や脱炭素化など、地域社会にはさまざまな課題が山積している。それに加えて、ロシアによるウクライナ侵攻とそれに伴うエネルギー供給不安が増大しており、日本においても、今後、どのように石油、ガス、石炭などを安定的に確保していくのか、また、脱炭素化をどのように進めていくのかが問われている。これらの問題は、国家的な政策課題であることは当然であるが、自治体にとっても避けて通れない重要な問題である。自治体として、どのように再生可能エネルギー問題に取り組み、安定的に住民にエネルギーを供給していくのか、また、それに伴う環境問題にどのように対応していくのか、それによって持続可能な地域社会をどのように築いていくのかが問われていると言えよう。このシンポジウムでは、自治体がどのようなエネルギー政策を進め、また諸課題に対応していかなくてはならないのかについて、学際的な観点に加え、自治体の実例も交えて議論する。

8.次第: 時間設定は今後の調整により変更の可能性がある。

○司会 礒崎 初仁(日本地方自治学会企画委員長、中央大学法学部教授)

13:30 開催挨拶

大山 耕輔(日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学法学部教授)

13:35 報告①「エネルギー政策における自治体の役割-原子力と再生可能エネルギーの場合」

城山 英明(日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学研究科教授)

14:00 報告②「再生可能エネルギーと地域再生-公営電気事業に注目して」 太田 隆之(静岡大学大学院人文社会科学研究科准教授)

14:25 報告③「太陽光発電設備の設置をめぐる法的紛争」

黒坂 則子 (同志社大学法学部教授)

14:50-15:00 ( 休憩 )

15:00 報告④「五島市の再生可能エネルギーへの取り組み」 野口 市太郎 (長崎県五島市長)

15:25 コメント

金井 利之(日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

15:40 討論(報告者及びコメンテーター)

16:20 全体総括とまとめ 今里 佳奈子(日本地方自治学会理事、龍谷大学政策学部教授)

16:30 閉会

9. 関係部の承認の有無:第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者は、主催分科会委員)

# 公開シンポジウム 「動物のワクチン〜家畜を中心に〜」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会獣医学分科会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:なし
- 4. 日 時: 令和4年(2022年) 11月12日(土) 10:00~12:00
- 5. 場 所:オンライン開催(北海道大学大学院獣医学研究院から配信)
- 6. 分科会等の開催:開催予定なし

### 7. 開催趣旨:

COVID-19への予防対策により、社会的にワクチンに関する関心が高まりました。しかし「ワクチン」と言っても実は色々な目的があります。ワクチンは人に対してだけではなく、動物の疾病に対しても開発・接種が行われています。動物のワクチン開発では、疾病制御だけではなく、抗生物質等の使用削減や健康な動物由来の食肉の確保といった、食の安全や One Health の観点も加わります。このシンポジウムでは、動物のワクチンがどのように開発されているのか、実際にどの現場でワクチンが使われているのか、動物のワクチン開発ならではのトピックを交えつつ情報を共有します。

#### 8. 次 第:

司会 <u>石塚</u> 真由美(日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院 教授)

- 10:00 はじめに〜動物のワクチンとは? <u>杉山</u> 誠(日本学術会議連携会員、岐阜大学副学長、東海国立大学機構理事)
- 10:20 牛ピンクアイ(伝染性角結膜炎)のワクチンをつくる John A. Angelos (カリフォルニア大学デービス校獣医学部教授)
- 11:00 アフリカ豚熱のワクチンをつくる 國保 健浩(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生 領域長)

- 11:30 野生動物の豚熱ワクチンをつくる 迫田 義博(北海道大学大学院獣医学研究院教授)
- 12:00 閉会の挨拶 堀 正敏 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教 授)
- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

# 公開シンポジウム 「施設園芸のグリーン化に向けた課題と展望」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会

2. 共催:なし

3. 後 援:日本農業気象学会、日本生物環境工学会

4. 日 時: 令和4年(2022年) 11月15日(火) 13:00~17:00

5. 場 所: オンライン開催

6. 分科会等の開催: 開催予定なし

#### 7. 開催趣旨:

「経済と環境の好循環」を実現する産業政策として位置付けられているグリーン成長戦略の推進に向け、食料安全保障の基盤を担う農業においても、環境に配慮した発展や持続性の確保、すなわちグリーン化の重要性が増している。政府は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに達成すべき目標を段階的に設定している。この実現には、多くの技術革新が必要であり、産学官の連携による課題解決が不可欠である。本来、施設園芸は、栽培環境を改変することで、市場性の高い園芸作物を効率的に生産できる可能性を有しているが、環境制御にエネルギーを使用することもあり、省エネルギー化や環境負荷低減がより一層求められている。

本シンポジウムでは、植物工場を含めた施設園芸のグリーン化に向け、ゼロエミッション、カーボンニュートラル、資源循環などの観点から、必要な研究・技術開発の方向性について、農業生産環境工学的視点を中心に議論する。

### 8. 次 第:

13:00 開会挨拶

仁科 弘重(日本学術会議第二部会員、愛媛大学学長)

#### 13:05 趣旨説明

荊木 康臣 (日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授)

講演:

司会:荊木 康臣(日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授)

13:20 「園芸施設の化石燃料ゼロ消費にむけた課題」

<u>奥島</u> 里美(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構企画戦略本部スマート農業事業専門プログラムオフィサー)

- 13:40 「植物工場における省エネ・省資源技術の海外動向」 林 絵理(非営利活動法人植物工場研究会副理事長)
- 14:10 「施設園芸・植物工場のエネルギー・物質収支のモデリングと解析」 後藤 英司(日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究院教授)

<休憩>14:40-14:55

司会:<u>彦坂</u> 晶子(日本学術会議連携会員、千葉大学園芸学研究科生物資源化学コース 准教授)

- 14:55 「高精度植物生体情報を活用した施設生産のカーボンニュートラル戦略」 高山 弘太郎(日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科教 授、愛媛大学大学院農学研究科教授)
- 15:25 「地域で発生する有機性廃棄物の施設栽培に向けた資源化」 遠藤 良輔(日本学術会議連携会員、大阪公立大学大学院農学研究科講師)
- 16:15 総合討論

進行:後藤 英司(日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究院教授) 講演者ほか1名登壇予定

16:55 閉会挨拶

大政 謙次(日本学術会議連携会員、高崎健康福祉大学農学部長·教授、東京大学 名誉教授)

- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

### 公開シンポジウム

# 「なぜ SDGs?-資源・材料循環における SDGs とカーボンニュートラルー」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議材料工学委員会・総合工学委員会・環境学委員会合同 SDGs のための資源・材料の循環使用検討分科会
- 2. 共 催:東京大学生産技術研究所非鉄金属資源循環工学寄付研究部門、同研究所持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター
- 3. 後 援:東京大学レアメタル研究会、早稲田大学持続的環境エネルギー会社共創研究機構、JMIA日本鉱業協会、早稲田大学循環バリューチェーンコンソーシアム、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人環境資源工学会、資源地質学会、公益社団法人日本金属学会、一般社団法人軽金属学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、株式会社鉱業新聞社、株式会社産業新聞社、株式会社セメント新聞社、株式会社鉄鋼新聞社、株式会社日本砕石新聞社(予定)
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月18日(金)14:00~18:00
- 5.場 所:東京大学生産技術研究所コンベンションホール(東京都目黒区駒場 4-6-1) (ハイブリッド開催)
- 6. 分科会の開催: 開催予定あり

#### 7. 開催趣旨:

SDGs の中でも目標 12「つくる責任、つかう責任」に直接的に関係し、昨今のカーボンニュートラル政策においても一層の促進が重要視されている資源材料循環は、社会システム的にも技術的にも変革が求められている。資源循環に対する課題は物質ごとに大きく異なるため、本シンポジウムでは特に蓄電池などに影響の大きい金属資源におけるその現状と課題を俯瞰し、市民と共にその理想的な循環のあり方を議論する場とする。

### 8. 次 第:

14:00 開会挨拶

岡部 徹(日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

14:10 法学・政治学からみたサーキュラーエコノミー(仮) 大塚 直(日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学部教授)

- 15:00 カーボンニュートラルと資源循環の両立の難しさと重要性(仮) 森口 祐一(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事、 東京大学名誉教授)
- 15:50 蓄電池のサステナビリティ検討に対する取り組み(仮) 武尾 伸隆(経済産業省商務情報政策局電池産業室長)
- 16:40 休憩

17:00 パネルディスカッション ファシリテーター

> <u>所</u> 千晴(日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学研究科教授、東京 大学大学院工学系研究科教授)

- パネラー <u>森田 一樹(日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)</u> 並びに講演者
- 17:50 開会挨拶 笹木 圭子 (日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院教授)
- 9. 関係部の承認の有無:第三部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無: カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

### 公開シンポジウム

# 「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2022 -原子力災害 11 年の総括と福島県農林水産業の復興-」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題 分科会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会、公益社団法人日本畜産学会、日本農業経済学会、公益社団法人日本農芸化学会、一般社団法人農業食料工学会、国立大学法人福島大学、公立大学法人福島県立医科大学、国立大学法人長崎大学福島未来創造支援研究センター、国立大学法人東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、東日本大震災・原子力災害伝承館
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月19日(土)13:00~17:00
- 5.場 所:双葉町産業交流センター(福島県双葉郡双葉町中野高田1番地1) (ハイブリット開催)
- 6. 分科会等の開催: 開催予定あり

## 7. 開催趣旨:

東日本大震災・原発事故から11年半が経過した。原子力災害を経験した福島県、特に 浜通りの地域産業は、事故後の社会変動により生産構造、市場構造が大きく変化した。 原発事故とそれに伴う放射能汚染問題は、福島県産農産物のブランド価値を低下させる こととなった。震災後10年を機に、避難地域の解除、復興政策の再編、福島国際研究教 育機構の設置、ALPS 処理水対策などの取組が進んでいる。地域がこのような大きな転換 点を迎えるにあたって、この間の放射能汚染対策の総括とそれに基づく正確な情報を国 内外に発信する必要がある。そこで本シンポジウムでは、事故からの11年を振り返り、 農林水産業の現場における活動及び食品の流通から食卓までの安全の取組を消費者や 生活者の視点も踏まえながら議論し、福島県農林水産業と地域の復興の加速に資するこ とを目指すこととする。

### 8. 次 第:

司 会:萩原 篤志(日本学術会議連携会員、長崎大学水産学部特定教授)

13:00 開会の挨拶:

中嶋 康博(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:10 歓迎挨拶:伊澤 史朗(福島県双葉郡双葉町長)

13:25 農業の11年の総括と展望:

小山 良太(日本学術会議連携会員、福島大学食農学類教授)

原田 英美(福島大学食農学類准教授)

標葉郡の農家

14:05 水産業の11年の総括と展望:

八木 信行(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 野崎 哲(福島県漁業協同組合連合会代表理事会長)

14:45-15:00 休憩

15:00 地域の暮らしの11年の総括と展望:

橘 清司(福島県企画調整部長)

登壇者追加1名予定

総合討論司会: 葛西 優香(東日本大震災・原子力災害伝承館特任研究員)

15:40 総合討論

小山 良太(日本学術会議連携会員、福島大学経済経営学類教授)

関谷 直也(日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授)

中嶋 康博(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究院教授)

八木 信行(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

<u>那須 民江(日本学術会議連携会員、中部大学生命健康科学研究所客員教授、名古</u> 屋大学名誉教授)

標葉郡の農家

野崎 哲(福島県漁業協同組合連合会代表理事会長)

橘 清司(福島県企画調整部長)

登壇者追加1名予定

## 16:50 閉会の挨拶:

真鍋 昇(日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・教授)

- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

# 公開シンポジウム 『人類学者と語る人間の「ちがい」と差別』 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会、 地域研究委員会文化人類学分科会、地域研究委員会多文化共生分科会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:東京都教育委員会、一般社団法人日本人類学会、一般公団法人日本文化人類学会
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月19日(土)14:00~17:00
- 5.場 所: 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内) (ハイブリット開催)
- 6. 分科会等の開催:開催予定あり

#### 7. 開催趣旨:

日本学術会議の自然人類学・文化人類学の連携会員らが話題提供し、高校生らと人間の「ちがい」と差別についてともに語り、考える。

東京都教育委員会の協力を得て、都立高校及び都内の一部私立高校在籍の高校生(引率 教員含む)約440名を対面での参加対象者とし、一般向けにオンラインでも公開する。

高校生を対象とし、かつオンラインで一般向けにも公開する大規模なシンポジウムを開催することで、日本学術会議による社会的貢献に寄与するとともに、次世代に人類学の魅力をアピールする。

## 8. 次 第:

14:00 開会の挨拶・趣旨説明

宮崎 恒二(日本学術会議連携会員、東京外国語大学名誉教授)

14:10 第1セッション「基調講演」

「動物に対する誤解から人間社会の本質を考える」

<u>山極</u> 壽一(日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所長)

14:30 第 2 セッション「人類学者からの話題提供」 話題 1 「10 万年の人類史から読み解く人間の多様性」 海部 陽介(日本学術会議特任連携会員、東京大学総合研究博物館教授)

> 話題2「多様性が生まれるその背景 -遺伝学の視点から-」 小金渕 佳江(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻助教)

話題3「創られた『人種』『民族』が残したもの」 竹沢 泰子(日本学術会議連携会員、京都大学人文科学研究所教授)

話題4 「『女』『男』カテゴリーの『ちがい』が意味するもの」 中谷 文美(日本学術会議連携会員、岡山大学文明動態学研究所教授)

- 15:30 休憩(15分)
- 15:45 第3セッション「高校生との対話」 上記登壇者+高校生2名(司会高校生2名)
- 16:50 閉会の挨拶 未定
- 17:00 終了
- 9. 関係部の承認の有無:第一部及び第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

# 公開シンポジウム 「気候変動時代における市町村による新たな森林管理とゾーニング」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議農学委員会林学分科会

2. 共催:なし

3. 後 援:一般社団法人日本森林学会、一般社団法人日本木材学会

4. 日 時:令和4年(2022年)11月20日(日)13:00 ~ 15:30

5. 場 所: オンライン開催

6. 分科会等の開催: 開催予定あり

## 7. 開催趣旨:

森林は水源涵養機能や二酸化炭素の吸収源機能などの多面的機能を有する一方で、豪雨による土砂崩壊の発生など、災害の現場ともなりえる。日本は国土の3分の2を森林が占め、特に森林率の高い地域では、住民の安全・安心な生活環境の実現に向けて、森林管理や土地利用のゾーニングのあり方が重要な課題となっている。2019年に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」と「森林経営管理法」が成立し、市町村が主体となって地域の森林の維持管理や森林資源の利用を推進することができるようになった。本シンポジウムは、温暖化対策や地域づくり、国土利用計画、国土強靱化など多様な視点から森林の管理やゾーニングのあり方について、多様な関係者が共に議論する場とすることを目的とする。

## 8. 次 第:

司会 <u>田中 和博(日本学術会議特任連携会員、京都先端科学大学バイオ環境部</u> バイオ環境デザイン学科教授・学部長)

- 13:00 開会挨拶:<u>丹下 健(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研</u> <u>究科教授)</u>
- 13:05 趣旨説明:田中 和博(日本学術会議特任連携会員、京都先端科学大学バイオ環境部バイオ環境デザイン学科教授・学部長)
- 13:15 基調講演「市町村による新たな森林管理の時代を迎えて」 土屋 俊幸(東京農工大学名誉教授)

パネルディスカッション「気候変動時代における市町村による新たな森林管理とゾーニン グ |

ファシリテータ: <u>井上 真理子(日本学術会議連携会員 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所多摩森林科学教育的資</u>源研究グループ園主任研究員)

- 13:45 「緩和策と適応策の視点による森林ゾーニング」 森 章 (日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター教授)
- 13:55 「森林経営の視点による森林ゾーニング」 光田 靖(宮崎大学農学部教授)
- 14:05 「減災・防災の視点による森林ゾーニング」 <u>徳地 直子(日本学術会議連携会員、京都大学フィールド科学教育研究センター</u> 教授)
- 14:15 「市町村による森林管理の現状と課題」 和田 透 (岐阜県郡上市農林水産部林務課長) 河合 智 (郡上森林マネジメント協議会事務局次長)
- 14:25 ディスカッション パネルディスカッション登壇者とファシリテータ
- 15:25 閉会挨拶:杉山 淳司(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授)
- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

## 公開シンポジウム

# 「新興医療評価技術の適格性認定システムの構築とその課題(仮題)」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・ 機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの 課題検討分科会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:なし
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月21日(月)13:00~17:30
- 5.場 所:東京大学医科学研究所講堂(1号館1階)(東京都港区白金台4-6-1) (ハイブリッド開催)
- 6. 分科会等の開催:開催予定なし

#### 7. 開催趣旨:

バイオマーカー、モデル疾患動物、臓器チップ等の動物実験代替技術などの医療製品の有効性、安全性、品質を評価するための新しい評価方法は「医療評価技術」(英語ではDevelopment tool)と総称される。医療評価技術は科学技術の進歩とともに新しい手法を取り入れていく必要があり、21世紀に開発された製品を20世紀の評価方法で評価していては正しく評価できない。しかしながら新しい評価方法を採用するにはエビデンスが十分に揃っていないことが多く、評価方法が妥当かどうかをエビデンスとともに検証し、薬事承認におけるデータ取得に使ってよいというお墨付き(適格性認定)を積極的に与えていく「仕組み」を用意しておくことが求められる。こうした医療評価技術の適格性認定を実施する仕組みをどのようにデザインしていくかについて、海外で実施されている評価技術の適格性認定(Development tool qualification)の動向も踏まえ、産官学で意見交換を行う。

#### 8. 次 第:

(予定)

13:00 開会挨拶

望月 眞弓(日本学術会議副会長、第二部会員、慶應義塾大学名誉教授) 来賓挨拶

松尾 泰樹(内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長)

Session 1:新興医療技術の利用ルール整備におけるルール・オブ・ルールの役割

13:10 分科会報告:分科会の5つの提案とルール・オブ・ルールの役割 「評価技術の適格性認定システムの効率性と透明性の確保に向けて」 加納 信吾(日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成研究科

メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野教授)

パネルディスカッション

13:25 「評価技術の適格性認定ニーズと日本の課題」

モデレーター

<u>関野 祐子(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科</u> 特任教授)

パネリスト

「再生医療分野における評価技術の適格性認定問題」

澤 芳樹(日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科保健学 専攻未来医療学寄附講座特任教授)

13:40 「医療機器分野の評価技術の適格性認定システムを巡って」 菊地 眞(公益財団法人医療機器センター理事長)

13:55 「医薬分野における評価技術の適格性認定問題を考える」 森 和彦(日本製薬工業協会専務理事、前厚生労働省大臣官房審議官(医 薬担当))

14:10 パネルディスカッション (モデレーター、パネリスト全員に加え、坂田 亮太郎 (日経バイオテク編集長))

#### 休憩 (10分)

Session 2:日本版ルール・オブ・ルール構築に向けた課題

14:50 「分科会報告:新興科学技術のガバナンスとしての評価技術の適格性評価」

<u>城山</u> 英明(日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教 授)

パネルディスカッション

15:05 日本版 development tool qualification のデザインに向けて モデレーター

> 城山 英明(日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教 授)

パネリスト

「開発ガイドライン策定のためのガイドライン整備と評価技術」 廣瀬 大也(経済産業省商務・サービスグループへルスケア産業課医療・ 福祉機器産業室室長)(打診中)

15:20 「評価技術におけるルール組成能力向上に向けた取り組み」 未定(厚生労働省に打診中)

15:35 「提言実行に向けたリソース面からの課題と必要資源」 合田 幸広(日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長)

15:50 パネルディスカッション(モデレーター、パネリスト全員に加え、松尾 泰樹(内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長))

## 休憩(10分)

Session 3: 具体的なケースから考える

パネルディスカッション

16:30 「イノベーター視点から見た評価技術の適格性認定」

モデレーター

林 裕子(日本学術会議連携会員、山口大学大学院技術経営研究科教授(特命))

パネリスト

「OECD テストガイダンス作成の経験から見たツールガイダンス整備の課題」

小島 肇 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)「再生医療・ 遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業」プログラムオ フィサー)

16:45 「再生医療製品における開発ツール」 畠 賢一郎(一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム代表理事 会長)

17:00 パネルディスカッション(モデレーター、パネリスト全員に加え、 井上 純一郎(日本学術会議連携会員、東京大学特命教授) 佐久間 一郎(東京大学大学院工学研究科教授)

17:25 閉会挨拶

佐治 英郎 (日本学術会議連携会員、京都大学特任教授、京都大学名誉教 授)

9. 関係部の承認の有無:第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

# 公開シンポジウム 「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

2. 共 催:未定

3. 後 援:未定

4. 日 時:令和4年(2022年)11月25日(金)13:00~17:15

5. 場 所: オンライン開催(予定)

6. 分科会等の開催: 開催予定あり

## 7. 開催趣旨:

気候変動の顕在化に伴い、海水温上昇や海洋酸性化などを受けた将来的な生態系の変化に対応した水産業のあり方について議論が進められている。近年さらに、カーボンニュートラルに向けて水産業及び関連分野の貢献がどうあるべきかについての議論も活発化している。海洋は大気中の二酸化炭素を吸収し、その一部は海洋生物によって取り込まれブルーカーボンとして海洋生態系に隔離・貯留される。一方で海洋生物は二酸化炭素を排出するため、正味の吸収がどの程度あるのかについての実態把握の研究が進んでいる。また、微細藻類を活用したバイオ燃料生産についても高い関心を集め、多くの研究が進行している状況にある。さらに、食の市場が地球規模に拡大し、世界各地で生産された食材が一般家庭の食卓に上るようになった結果、フードシステムからの温室効果ガス排出量も拡大しており、これをどう抑制すべきかが課題となっている。水産物の中には他の食品と比較して二酸化炭素等の排出量が低いとされる種類もあり、この特性をどう活用するかも社会的な課題といえる。この公開シンポジウムは、こうした水産業に関わるカーボンニュートラルについて現状と課題の整理を行い、将来を展望することを目指す。

#### 8. 次 第:

13:00-13:10 開会挨拶と趣旨説明

古谷 研(日本学術会議連携会員、創価大学特別教授、水産・海洋科学研究連絡協 議会議長、日本農学アカデミー会員) 第1セッション:基調講演

座長 大越 和加(日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授)

13:10-13:50 基調講演1 「海の生態系とカーボンニュートラル」

堀 正和(国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所沿岸生態系グループ長、東京海洋大学客員教授)

13:50-14:30 基調講演2「ブルーカーボン:その役割と貢献」

桑江 朝比呂 (国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所沿岸環境研究グループ 長、ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 (JBE) 理事長)

14:30-14:40 休憩

第2セッション:事例報告

座長 笠井 久会(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院准教授)

14:40-15:10 事例報告1「微細藻類の活用とカーボンニュートラル」

岡田 茂(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

15:10-15:40 事例報告 2 「北西太平洋地域行動計画におけるアマモ場ブルーカーボン 推計の国際的取組み」

寺内 元基(公益財団法人環日本海環境協力センター(NPEC)主任研究員)

15:40-16:10 事例報告 3 「水産業におけるカーボンフットプリント: 銚子に水揚げされる国産のサバを事例として」

松岡 良司(松岡水産(株)代表取締役社長)

第3セッション:総合討論

座長 八木 信行(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 16:10-17:10 パネリスト:堀 正和、桑江朝比呂、飯田ひかり(飯田水産株式会社)、 中田 薫(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人水産研究・教育機構理事、公益 財団法人日本水産学会副会長)

17:10-17:15 閉会挨拶

佐藤 秀一(日本学術会議連携会員、福井県立大学海洋生物資源学部教授)

- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

# 公開シンポジウム 「芸術としての風土」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会

2. 共 催:大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所

3. 後 援:京都大学文学研究科日本哲学史専修

4. 日 時:令和4年(2022年)11月26日(土)9:50~17:40 11月27日(日)9:50~18:30

5.場 所:京都大学国際科学イノベーション棟・シンポジウムホール (京都府京都市左京区吉田本町) (ハイブリッド開催)

6. 分科会等の開催: 開催予定なし

# 7. 開催趣旨:

風土は古来、水土と言われたが、では風土を自然と見なしても差し支えないのだろうか。和辻哲郎によれば、風土は自然環境や自然現象ではない。つまり和辻は、風土を私たち人間に対する対象、人間生活を規定するものではなく、人間存在の自己了解の仕方、あるいは自己客体化、自己発見の契機であると捉えたのだ。

風土の現象は、文芸、美術、宗教、風習のような人間の生活におけるさまざまな表現に見出すことができるという。フランス人地理学者・東洋学者のオギュスタン・ベルクは、和辻の風土論を発展させ、人間存在とその風土との相互関係を積極的に導き、これを通態と規定した。現実は、主客の理論的二極間の往復運動として通態的なのである。ベルクにとって、風土とはまた、人間と地球の生態・技術・象徴的な関係をも意味する。

このような風土の動態的関係に、私たちは芸術が求める自然美、芸術の創造的行為、 その技術性を読み取ることができるのではないだろうか。このシンポジウムでは、登壇 者の皆様とともに、「芸術としての風土」について考えてみたい。

## 8. 次 第:

<11月26日(土)>

9:50-10:00 開会挨拶

佐野 みどり (日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授) 趣旨説明 阿部 健一(日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究教授)

上原 麻有子 (日本学術会議連携会員、京都大学文学部・文学研 究科日本哲学史専修教授)

10:00-10:50 講演『科学する詩人たちの旅 ゲーテの「イタリア紀行」を手掛 かりに』

石原 あえか (東京大学大学院総合文化研究科教授)

10:50-12:05 対談『大地の芸術(仮題)』

鞍田 崇(明治大学大学院理工学研究科准教授)

須田 悦弘 (多摩美術大学彫刻学科客員教授、木彫アーティスト) 昼食 (12:05 ~ 13:10)

13:10-14:20 基調講演『風土から自然学へ:自然科学と芸術の間で学ぶ新しい 環境学』

> 山極 壽一(日本学術会議連携会員(第24期会長)、大学共同利 用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 長)

14:20-15:10 講演『アートと越境――日本・ロシア・東欧・南極』 鴻野 わか菜(早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授) 休憩(15:10 ~ 15:20)

15:20-16:50 基調講演『古典元素の芸術――倫理と美学の問題』 アレクサンドル・ポノマリョフ(アーティスト、南極ビエンナー レ・プロデューサー)

休憩 (16:50 ~ 17:00)

17:00-17:40 総合討論 17:40 閉会挨拶

> 山極 壽一(日本学術会議連携会員(第24期会長)、大学共同利 用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 長)

#### <11月27日(日)>

9:50-10:00 開会挨拶

佐野 みどり (日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授) 趣旨説明

阿部 健一(日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究教授)

上原 麻有子 (日本学術会議連携会員、京都大学文学部・文学研 究科日本哲学史専修教授) 10:00-10:50 講演『気候変動の時代における芸術と環境美学』 伊東 多佳子(富山大学学術研究部芸術文化学系准教授)

10:50-11:40 オンライン講演『ユーラシア動物闘争文と生命循環:生きとしい けるものの造形と風土』

> 鶴岡 真弓(多摩美術大学美術館館長、芸術人類学研究所所長、 ケルト芸術文化研究家)

> > 休憩 (11:40 ~ 11:50)

11:50-13:10 基調講演『サイトスペシフィック・アートー美術は土地に根差すー』

北川 フラム (アートフロントギャラリー代表、「大地の芸術 祭」「瀬戸内芸術祭」総合ディレクター)

13:10-13:30 総合討論

昼食 (13:30 ~ 14:30)

14:30-15:45 対談『芸能の効用』

高橋 睦郎(歌人、詩人、俳人)

村上 湛 (明星大学人文学部日本文化学科教授)

15:45-16:35 講演『風土としての「筆墨」と「書画」』

島尾 新(学習院大学文学部哲学科教授)

休憩 (16:35 ~ 16:45)

16:45-17:55 オンライン基調講演『芸術としての風土』

オギュスタン・ベルク (フランス国立社会科学高等研究院退職教 授)

17:55-18:30 総合討論

18:30 閉会挨拶

山極 壽一(日本学術会議連携会員(第24期会長)、大学共同利 用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 長)

- 9. 関係部の承認の有無:第一部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

# 日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会「VUCA時代における諸課題に対する分野横断的アプローチ」の開催について

1. 主 催:日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人香川大学

2. 後 援:未定

3. 日 時: 令和4年11月26日(土) 13:30~17:10

4.場 所: 香川大学幸町キャンパス・オリーブスクエア多目的ホール (香川県高松市幸町2-1) ※一般参加者は事前登録制とし、オンラインでも配信する。

5. 分科会等の開催: なし

#### 6. 開催趣旨:

現代は、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字から VUCA 時代とも称される。こうした予想困難な変化が次々に起こる時代において、私たちは前例のない様々な課題に直面している。デジタル技術をはじめとした科学技術の急速な発達や経済のグローバル化は、人々の生活を大きく変化させるとともに、科学技術と社会との折り合い方について新たな問題を生じさせた。また、人口減少や少子高齢化の進展といった社会構造の変化とそれに伴う地方経済の衰退をどう克服するか、さらには、地球温暖化の進行をどのように食い止め、多発する自然災害にどのように対応するかといった課題も、現代社会が乗り越えなくてはならない課題である。

これらの諸課題の特徴は、特定の専門分野における知識を活用するだけでは十分な解決策を導けない点にあると考えられる。こうしたとき、異なる分野の知見を組み合わせることが解決の足がかりになるだろう。本講演会では、VUCA時代における分野を横断した様々な課題に対して学術的にどのようにアプローチできるか、また、分野横断的なアプローチがこれらの課題に対して、どのような新しい解を見つけ出すことができるのか、その成果を報告する。

## 7. 次 第:

- (1) 開会挨拶
- $13:30 \sim 13:45$

髙村 ゆかり (日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授) 寛 善行 (香川大学長)

- (2) 趣旨説明
- $13:45 \sim 13:50$

堤 英敬(日本学術会議連携会員、香川大学法学部教授)

- (3) 講演
- 13:50 ~ 14:20 「創発的アプローチの重要性と実践への取り組み」 板谷 和彦(香川大学大学院地域マネジメント研究科教授)
- 14:20 ~ 14:50 「ICF(国際生活機能分類)と新しい能力観を考える」 坂井 聡(香川大学教育学部教授)

14:50 ~ 15:20 「医療の高度化と生命をめぐる法的課題」 平野 美紀(香川大学法学部教授)

15:20 ~ 15:30 休憩

15:30 ~ 16:00 「地方のまちなか再生をめぐる分野横断の必要性と課題点」 西成 典久(香川大学経済学部教授)

16:30 ~ 16:30 「災害軽減のための分野横断的アプローチ」 梶谷 義雄(香川大学創造工学部教授)

16:30 ~ 17:00 「高齢者にとっての災害公営住宅の暮らしやすさ」 中島 美登子(香川大学創造工学部准教授)

## (4) 閉会挨拶

 $17:00 \sim 17:10$ 

相田美砂子(日本学術会議第三部会員、広島大学学術・社会連携室特任教授)

- 8. 関係部の承認の有無:科学者委員会
- 9. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置を検討するものとする。

# 公開シンポジウム

# 「『SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦』

# 第4回植物科学からサステイナブルな農業生産・ものづくりへ」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、基礎生物学 委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:公益社団法人日本農芸化学会、公益社団法人日本生物工学会、一般社団法人日本植物生理学会、一般社団法人日本植物バイオテクノロジー学会
- 4. 日 時:令和4年(2022年)11月29日(火)13:00~16:35
- 5. 場 所: オンライン開催
- 6. 分科会等の開催:開催予定なし

## 7. 開催趣旨:

自ら動くことのできない植物は、大気中の二酸化炭素から多種多様な有機物を生成する能力により、地球環境の保全、農作物としての食糧維持などに貢献してきた。一方、多量施肥農業による土壌の劣化、乱獲による絶滅危惧種の出現などさまざまな問題が生じ、環境の負荷の少ないサステイナブルな農業生産、ものづくりが求められている。そのためには植物生理・植物代謝の理解にとどまらず、オミクス解析、情報科学などを取り入れ、分子からフィールドまでの植物、土壌環境、微生物の相互作用の統合的な解析、さらには、有用物質の持続的な生産に向けゲノム編集技術などを活用した合成生物学的思考も必要である。本シンポジウムは、農芸化学分科会と植物科学分科会が連携して、基盤研究から産業応用までを見据えた最新研究に関わる研究者の講演、パネルディスカッションなどを通して、SDGs 達成に向けた社会問題解決のための道筋について議論する。

## 8. 次 第:

13:00-13:20

開会の辞: <u>倉田 のり(日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究</u> 所名誉教授)

来賓挨拶: 松山 旭(公益社団法人日本農芸化学会会長、キッコーマン株式会社取締役 常務執行役員)

趣旨説明: <u>村中</u> 俊哉(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 教授) 13:20-13:50

「作物と微生物叢の同時改良するホロゲノム選抜法の開発」

岩田 洋佳(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

座長: 丸山 明子(日本学術会議連携会員、九州大学農学研究院准教授)

13:50-14:20

「作物頑健性に寄与する根圏ケミカルワールドの機能」

杉山 晚史(京都大学生存圈研究所准教授)

座長: <u>森田</u> 美代(日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構 基礎生物学研究所教授)

14:20-14:50

「木質バイオマス生合成の分子的理解とその応用に向けて」

大谷 美沙都(日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)

座長: 佐藤 豊 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所教授)

14:50-15:00 (休憩)

15:00-15:30

「植物ホルモン生合成・シグナル伝達の理解からバイオマス生産向上へ」

榊原 均(日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

座長: 稲葉 靖子 (日本学術会議連携会員、宮崎大学准教授)

15:30-16:00

「ゲノム編集で新しい植物を創る・新しいものを造る」

刑部 祐里子(東京工業大学生命理工学院教授)

座長: 三村 徹郎 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科附 属生態調和農学機構・特任研究員)

16:00-16:30 パネルディスカッション

「植物研究は、SDGs達成にどのように貢献するか」

進行:河内 孝之(日本学術会議連携会員、京都大学生命科学研究科教授)

パネリスト:岩田 洋佳、杉山 暁史、大谷 美沙都、榊原 均、刑部 祐里子

16:30-16:35

閉会挨拶:山崎 真已(日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院薬学研究員教授)

- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

# 公開シンポジウム 「地元創成看護学の実装-教育・研究・社会貢献の循環」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会

2. 共 催:第42回日本看護科学学会学術集会、一般社団法人日本看護系学会協議会

3. 後 援:なし

4. 日 時:令和4年(2022年)12月4日(日)14:45~16:15

5.場 所:広島国際会議場第2会場(広島県広島市中区中島町1-5) (ハイブリッド開催) ※収録映像のオンデマンド配信

6. 分科会の開催: 開催予定なし

#### 7. 開催趣旨:

人々の生活や健康に重大な影響を及ぼす課題は、「地元」によって多様な現れ方をする。その課題解決に資する保健医療福祉の資源も「地元」によって異なるため、一律の方策ではなく地元特有の解決が求められる。日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会は、2020年9月に提言「『地元創成』の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」を発出した。この提言で、「地元」とは「看護の対象集団・組織等が所在する地域、または看護系大学等の組織の理念や趣旨に根差す特定の地域、地理的境界もしくは共通の特性でかたどられる社会集団」とした。また、「地元創成看護学」とは「地元の人々の健康と生活に寄与することを目的として、社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する看護学」を目指すものとした。これは、地元自らが主体的に活動していくという価値観のもと、地元の人々が課題解決に向けた方策を自ら考え創っていけることを意図しているものである。

今日、災害が多発し、感染症パンデミックの複数の波を経験していく中で、各都道府県・ 市区町村、各設置主体・関連組織、あるいは多様なコミュニティを含む「地元」に特異的 な課題とその解決策を模索する実践知と学術的知見が、看護系大学の活動の蓄積の中から 生まれ続けている。これらを「地元」に特化した取組として終わらせず、地域・組織・時 代を超えて社会実装していくという視点と方策を改めて問い直していく必要がある。

今回は、東日本大震災の後に放射線看護学の分野を創設した青森県の弘前大学の事例、東京都で市民に向けた健康情報サービスを実装した聖路加国際大学の事例、高知県で多職

種連携・地域-病院協働・参画型の退院支援体制を構築する事業を展開した高知県立大学の事例を取り上げる。それぞれの取組をご紹介頂き、教育・研究・社会貢献という活動を好循環に導くプロセスは何であったか、そのプロセスにおける課題やポイントが何であったかを共有する。そして総合討論では、災害や感染症パンデミックの先を見据えた次世代に向けて、看護系大学が取り組むべき地元創成看護学の社会実装を加速化させる具体的な方策を、参加者と共に考える機会としたい。

## 8. 次 第:

- 14:45 開会挨拶 <u>小松 浩子(日本学術会議第二部会員、一般社団法人日本看護系学会</u> <u>協議会監事、日本赤十字九州国際看護大学学長)</u>
- 14:50 進行説明 座長 <u>綿貫 成明(日本学術会議連携会員、国立看護大学校看護学部</u> 看護学科老年看護学教授)

座長 菱沼 典子 (日本学術会議連携会員、前三重県立看護大学理事 長・学長、聖路加国際大学名誉教授)

- 14:55 「地元から発信する「放射線看護」 弘前大学大学院保健学研究科の取り組み」 野戸 結花(弘前大学大学院保健学研究科教授)
- 15:15 「市民向け健康情報サービス『るかなび』」の実装」 射場 典子(聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授)
- 15:35 「地域・病院・多職種協働型入退院支援体制構築事業-高知県立大学の取り組み」 森下 安子 (高知県立大学看護学部教授)
- 15:55 総合討論 (司会) 座長
- 16:10 閉会挨拶 <u>萱間 真美(日本学術会議連携会員、一般社団法人日本看護系学会協</u> 議会会長、国立研究開発法人国立国際医療研究センター国立 <u>看護大学校長)</u>
- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:パンデミックと社会に関する連絡会議

# 公開シンポジウム 「今、なぜ「国家」が問われるのか?」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議哲学委員会

2. 共 催:日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

3. 後 援:なし

4. 日 時:令和4年(2022年)12月10日(土)13:30~17:00

5. 場 所: オンライン開催

6. 分科会等の開催: 開催予定あり

## 7. 開催趣旨:

新型コロナウイルス(COVID-19)・パンデミック、そしてロシアのウクライナ侵攻のなか、「国家」(国民国家)のあり方について問い直しが求められている。国民国家を基礎単位とした世界秩序(ウェストファリア体制)は、この数百年の間に、欧米を中心に全世界に浸透し、近現代世界を規定してきた。しかし、1980年頃から顕著になったグローバル化の進展の中で、これまでの近代的な世界秩序の限界が様々指摘されるようになってきている。地球温暖化問題などが国民国家の利害関係を超えた緊急課題として意識されているのは、その一例である。

こうした状況下で、現在、人類社会を脅かしているパンデミックとウクライナの問題は、 グローバル化とはいわば逆の方向に世界の分断(多極化)を促進し、その分断は国民国家 内部にも及んでいる。これは、国民国家とグローバル化とが内包していた問題点を今問わ れるべき課題として顕在化させたものと言えよう。もちろん、個々の論点について意見は 様々であるが、いずれにしても、国民国家の問い直しは、国民一人ひとりの生活に関わる ものであるという点で、まさに国民的課題なのである。

本シンポジウムでは、現代の学術の知をより合わせることにより、この大問題に取り組む手がかりとなる多角的な知見を、日本で暮らす様々な人々に向けて発信することを試みたい。

## 8. 次 第:

司会: <u>奥田</u> 太郎(日本学術会議連携会員、南山大学社会倫理研究所教授) 挨拶

- 13:30 開会挨拶 芦名 定道(日本学術会議特任連携会員、関西学院大学神学部教授)
- 13:40 報告1『宗教にとって国家とは何かーその歴史と現在』 芦名 定道(日本学術会議特任連携会員、関西学院大学神学部教授)
- 14:00 報告2『「ブラッド・ランド」のナショナリズム―バビ・ヤールからウクライナ史を見る』

重田 園江 (明治大学政治経済学部教授)

- 14:20 報告3『宗教、言語、領域のはざま、あるいは広がり:アラブ世界の視点から』
  - 八木 久美子(日本学術会議連携会員、東京外国語大学大学院総合国際 学研究院教授)
- 14:40 報告4『夕天と民の間で一中国における「共在」の哲学とその射程』 石井 剛(東京大学大学院総合文化研究科教授)
- 15:15 コメント1 齋藤 純一(早稲田大学政治経済学術院教授)
- 15:30 コメント2 <u>隠岐 さや香(日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)</u>
- 15:45 ディスカッション
- 16:50 閉会挨拶 吉岡 洋 (日本学術会議第一部会員、第 25 期哲学委員長、 京都芸術大学文明哲学研究所特任教授)
- 9. 関係部の承認の有無:第一部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

# 公開シンポジウム

「地名標準化の現状と課題:地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、地球惑星科学委員会 IGU 分科会
- 2. 共 催: 科学研究費補助金 (挑戦的 (開拓) 「学際的な研究基盤となる日本の「GIS 地 名辞書」の開発に関する地理学的研究」(研究代表者 矢野桂司))
- 3. 後 援:地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、一般社団法人地理情報システム学会、日本地図学会
- 4. 日 時:令和4年(2022年)12月18日(日)13:00~17:00
- 5. 場 所: オンライン形式
- 6. 分科会の開催:開催予定なし

## 7. 開催趣旨:

国民生活に深く関わる地名は土地などに名づけられた名称である。近年、メディアや学校教育、あるいは外国人観光客の増加に対応した地名の外国語表記の不統一の問題が顕在化している。社会のデジタルトランスフォーメーション (DX) が展開する中で、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される住所データの扱いも議論され始めている。さらに、人文・社会科学に期待される総合知の実現においても、現在そして過去の地名・住所を含めた地名データベース (地名辞書) は、学術の基盤情報の1つとして位置付けられる。

加えて、各国の地名標準化の国際的な規範について助言する機関である、国連地名専門家グループ (UNGEGN) では、地名の商業化回避、現地以外から与えられた地名であるエキゾニムの使用や地名の文化的価値などが議論されている。しかし、わが国には、このような地名に関する国内そして国際的な問題に対応できる機関や研究組織が実質的には存在していない。そこで、本公開シンポジウムでは、日本における地名の標準化をめぐる課題を明らかにするとともに、その対応策を検討する。

#### 8. 次 第

司会: <u>矢野 桂司(日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授)</u> 山田 育穂(東京大学空間情報科学研究センター教授)

- 13:00 趣旨説明 岡本 耕平(愛知大学文学部教授)
- 13:10 海外での地名標準化の動向 渡辺 浩平(日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授)
- 13:30 地名の公的化のプロセス 野々村 邦夫 (一般財団法人日本地図センター顧問)
- 13:50 地方自治における地名をめぐる諸課題 荒見 玲子(名古屋大学大学院法学研究科教授)
- 14:10 アドレス・ベース・レジストリの推進について 平本 健二 (デジタル庁データ戦略統括)
- 14:30 休憩
- 14:40 地名から見る地域の歴史と漢字表記の課題 狩俣 繁久 (日本学術会議連携会員、琉球大学名誉教授)
- 15:00 地名の情報学とデータ駆動型研究の展開 北本 朝展(大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 教授)
- 15:20 教科書における地名表記 本田 智比古(帝国書院編集部企画室課長)
- 15:40 規範なき地名の取扱いとその影響 今尾 恵介 (著述業)
- 16:00 休憩
- 16:10 総合討論

司会: 高木 彰彦 (九州大学名誉教授)

16:50 閉会挨拶 春山 成子(日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授)

# 17:00 閉会

- 9. 関係部の承認の有無:第一部承認
- 10. 関係する委員会連絡会議の有無:無

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

# 公開シンポジウム

# 「新興・再興感染症の克服に挑む ~COVID-19 との闘いを経て~」 の開催について

1. 主 催:日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、公益社団法人日本薬学会

2. 共 催:公益財団法人日本生命科学アカデミー

3. 後 援:公益社団法人日本薬理学会

4. 日 時:令和5年(2023年)1月13日(金)13:00~17:00

5. 場 所:日本学術会議講堂(東京都港区六本木 7-22-34)(ハイブリッド開催)

6. 分科会等の開催: 開催予定あり

#### 7. 開催趣旨:

COVID-19 は、新たなワクチンや治療薬の開発や DX 推進など、医療や社会活動に変革をもたらした一方で、健康危機が世界中の人々の社会・経済活動に深刻なダメージをもたらすことを実証し、来るべき新興・再興感染症のパンデミックに対して効果的な予防策と備えが急務であることなど、私たちに多くの教訓を残した。新興・再興感染症の脅威の一つとして、人獣共通感染症と薬剤耐性 (AMR) が挙げられる。世界保健機関 (WHO) の推計によると、ヒトの新興感染症の 75%は人獣共通感染症とされる。抗菌薬は医療用のみならず畜産業、水産業、農業など幅広い分野で使用されており、薬剤耐性菌の増加と人獣間での伝播が懸念されている。よって、人・動物・環境に共通した課題としてワンヘルス・アプローチによる AMR 対策が急務とされている。

本シンポジウムの狙いは、COVID-19 との闘いを通して得た学びを振り返り、それらを糧として来るべき新興・再興感染症の克服に向けた展望と課題について論じることである。

# 8. 次 第:

## 座長

一條 秀憲(日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授)

<u>深見 希代子(日本学術会議連携会員、東京薬科大学名誉教授・生命医科学科客</u> <u>員教授)</u>

司会 • 実行委員長

# <u>赤羽</u> 悟美(日本学術会議連携会員、東邦大学医学部教授、公益社団法人 日本薬理学会理事長)

13:00 開会の辞

一條 秀憲(日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授) 佐々木 茂貴(公益社団法人日本薬学会会頭)(予定)

## 講演

13:10 「COVID-19 感染症 重症化/合併症の基礎メカニズム解明から創薬応用へ」

今井 由美子(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人医薬基盤・健康・ 栄養研究所プロジェクトリーダー)

13:45 「抗ウィルス薬開発の新たな展開: 次のパンデミックに対する更なる備 え」

井上 純一郎(日本学術会議連携会員、東京大学特命教授)

14:20 「新興感染症と mRNA ワクチン」

石井 健(東京大学医科学研究所感染・免疫部門ワクチン科学分野教授)

## (休憩 10分)

- 15:05 「COVID-19 がもたらした我が国のレギュラトリー・サイエンスの進歩」 宇津 忍 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事 (技監))
- 15:40 「サイレントパンデミックとしての薬剤耐性菌問題 (AMR) とワンヘルス・アプローチ」

舘田 一博 (東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授)

16:15 「人獣共通感染症の克服を目指して 一次のパンデミックにどう備える かー」

喜田 宏(北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所特別招聘教授・統 括)

#### 閉会の辞

16:50 <u>長野 哲雄(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、公益財団法人日</u> 本生命科学アカデミー監事)

山崎 真已(日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院薬学研究院教授)

9. 関係部の承認の有無:第二部承認

- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:
  - ・「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議
  - ・パンデミックと社会に関する連絡会議

# 公開シンポジウム 「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」 の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議薬学委員会地域共生社会における薬剤師職能分科会、薬学委員会、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本医療薬学会
- 2. 共催:なし
- 3. 後 援:公益財団法人日本生命科学アカデミー、公益社団法人日本薬剤師会、
  - 一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構、
  - 一般社団法人薬学教育評価機構、一般社団法人薬学教育協議会
- 4. 日 時:令和5年(2023年)1月22日(日)13:00~16:40
- 5. 場 所: オンライン開催
- 6. 分科会等の開催: 開催予定なし

#### 7. 開催趣旨:

持続可能な医療の提供や創薬に対する社会からの要請に的確に応えられる薬剤師の養成が喫緊の課題となっています。現在改訂が進められている次期の薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、「プロフェッショナリズム」が新たな項目として盛り込まれることが検討されています。本シンポジウムでは、医療、行政、産業、アカデミアなど多様な領域で活躍が期待される薬剤師のプロフェッショナリズムはどうあるべきかについて、多様な立場のシンポジストからいただいた提言をもとに議論を深めます。

## 8. 次 第:

前半司会: <u>安原 眞人(日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部特任教授、東京医科歯科</u> 大学名誉教授、一般社団法人日本医療薬学会監事)

## 13:00 開会挨拶

望月 眞弓 (日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授、公益社団法人日本薬学会監事、一般社団法人日本医療薬学会監事)

佐々木 茂貴(公益社団法人日本薬学会会頭、長崎国際大学薬学部教授)

13:05 趣旨説明

入江 徹美 (日本学術会議連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部特任教授)

- 13:10 「経済・財政からみた我が国の医療の課題」 佐藤 主光 (一橋大学大学院経済学研究科教授、一橋大学社会科学高等研究 院医療政策・経済研究センター長)
- 13:30 「薬害被害者・一般市民の立場から」(仮) 花井 十伍(特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権理事)
- 13:50 「医療者に求められるプロフェッショナリズム」 福井 次矢(東京医科大学茨城医療センター病院長、NPO 法人卒後臨床研修評 価機構専務理事)
- 14:10 総合討論1
  - 司会: <u>矢野</u> 育子(日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院教授・薬 <u>剤部長、公益社団法人日本薬学会理事、一般社団法人日本</u> 医療薬学会理事)

安原 眞人(日本学術会議連携会員、帝京大学薬学部特任教授、東京医 科歯科大学名誉教授、一般社団法人日本医療薬学会監事)

14:25-14:35 (休憩)

後半司会: <u>石井</u>伊都子(日本学術会議連携会員、千葉大学医学部附属病院薬剤部教授・薬剤部長、公益社団法人日本薬学会副会頭、一般社団法人日本医療薬学会副会頭)

- 14:35 「薬剤師行動規範とプロフェッショナリズム」 豊見 敦(公益社団法人日本薬剤師会常務理事)
- 14:55 「レギュラトリーサイエンスの立場から」 合田 幸広(日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長)
- 15:15 「行政や産業界で活動する薬剤師の立場から」 森 和彦(日本製薬工業協会専務理事、前厚生労働省大臣官房審議官(医薬担 当))
- 15:35 「薬学教育の立場から医療プロフェッショナリズムを考える」 鈴木 小夜 (慶應義塾大学薬学部薬学科医療薬学・社会連携センター医療薬学部 門教授)
- 15:55 総合計論2

司会:<u>奥田 真弘(日本学術会議第二部会員、大阪大学医学部附属病院教授・</u> 薬剤部長、一般社団法人日本医療薬学会監事)

石井 伊都子(日本学術会議連携会員、千葉大学医学部附属病院薬剤 部教授・薬剤部長、公益社団法人日本薬学会副会頭、一般社団 法人日本医療薬学会副会頭) 16:25 文部科学省挨拶

境。啓満(文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐)

16:30 厚生労働省挨拶

太田 美紀 (厚生労働省医薬・生活衛生局総務課薬事企画官)

16:35 閉会挨拶

山本 康次郎 (一般社団法人日本医療薬学会会頭、群馬大学大学院医学系研究 科教授)

- 9. 関係部の承認の有無:第二部承認
- 10. 関係する委員会等連絡会議の有無:無

(下線の講演者等は、主催委員会等委員)

## ○国内会議の後援(3件)

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当 である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

主催:一般社団法人男女共同参画学協会連絡会

期間:令和4年10月8日(土)

場所:東京大学浅野キャンパス武田先端知ビル武田ホール (ハイブリッド開催)

参加予定者数:約200人

申請者:一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 第20期委員長 原田 慶恵

審議付託先:科学者委員会

審議付託結果:科学者委員会 承認

2. <u>令和5年電気学会全国大会一般公開シンポジウム『カーボンニュートラルの時代に</u> <u>『電気』が果たす役割~未来につなぐ夢を語ろう~』(日本学術会議 制御・パワー</u> 工学分科会の活動から)

主催:一般社団法人電気学会

期間:令和5年3月15日午後(調整中)

場所:名古屋大学東山キャンパス (ハイブリッド開催)

参加予定者数:約200名

申請者:日本学術会議電気電子工学委員会制御パワー工学分科会 委員長、

一般社団法人電気学会第106代 会長 中川 聡子

審議付託先:第三部

審議付託結果:第三部 承認

3. 第46回人間-生活環境系シンポジウム

主催:人間-生活環境系学会

期間: 令和4年12月3日(十)~12月4日(日)

場所: イーグレひめじ 参加予定者数:約100名

申請者:人間-生活環境系学会 会長 高田 暁

審議付託先:第二部、第三部

審議付託結果:第二部、第三部 承認

# ○今後の予定

# ●幹事会

第333回幹事会 令和4年 11月28日(月) 13:30から

第334回幹事会 令和4年 12月21日(水) 13:30から

第335回幹事会 令和5年 1月26日(木) 14:30から

第336回幹事会 令和5年 2月22日 (水) 14:30から

第337回幹事会 令和5年 3月23日(木) 14:30から

## 以降の幹事会日程は追って調整

# ●総会

第186回総会 令和4年10月24日(月)~26日(水)